

事務事業名	教育魅力化推進事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課	
総合計画体系	政策名	<IV>ふるさとを学び育つまち<<教育・文化>>	所属G	キャリア教育政策G	課長名	工藤松太郎
	施策名	<26>学校教育の充実	担当者名	福島勇樹	電話番号	0854-40-1074 (内線) 2241
	目的:対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。	予算科目	会計: 款: 大事業: 大事業名: 教育推進事業 0:1:5:0:0:3 項: 目: 中事業: 中事業名: 0:5:1:0:2:9 教育魅力化推進事業
	基本事業名	<077>地域力を活かした教育の充実	目的:対象	児童・生徒	意図	地域の力を活かして学ぶ。

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H28 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	教育魅力化CNの配置等によりキャリア教育を柱に魅力ある教育環境を創出する。 ○各種CN配置(業務委託) 高校担当:教育魅力化CN 中学校区担当:教育支援CN 放課後学習担当:放課後学習CN ○教育フェスタ 多様な主体の連携・協働により地域における教育力を醸成するための学び合いの場。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R2年度実績(R2年度に行った主な活動) ○各種CN配置(業務委託) 委託契約、業務管理、定例協議ほか └教育魅力化CN(4名):コンソーシアムを核とした高校魅力化の推進 └教育支援CN(7名):コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの推進 ○教育フェスタ コロナウィルスの影響により中止	R3年度計画(R3年度に計画する主な活動) ○各種CN配置(業務委託) 委託契約、業務管理、定例協議ほか └教育魅力化CN(4名):コンソーシアムを核とした高校魅力化の推進 └教育支援CN(4名):ふるさと教育、「夢」発見ウィークの推進…6月補正 ○共同下宿運営(業務委託) 委託契約、業務管理、定例協議ほか ○教育フェスタ 企画・総合調整、運営			
	② 活動指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)
ア	コーディネーター数(中学)	人	7	7	7	0 (別事業計上)
イ	コーディネーター数(高校)	人	5	4	4	4
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)	
	中学生、高校生、教職員、保護者など	ア	中学校生徒数(3年生)	人数	345	310	311	317
		イ	高等学校生徒数(3年生)	人数	263	280	249	269
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)		
雲南市の高校で学びたいと思う中学生、将来は雲南市で住みたい・働きたいと思う高校生が増える。	ア	雲南市の高校への進学率	%	68.0	63.9	65.6	70.0	
	イ	ふるさとが好きな高校3年生の割合	%	92.7	87.8	92.2	90.0	
	ウ	将来雲南市で働きたいと思う高校3年生の割合	%	54.4	34.3	54.5	55.0	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(2年度決算)	② コストの推移	単位	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(計画)	
需用費 100千円 役務費 14千円 委託料 56,082千円 使用料及び賃借料 1千円	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円 2,100	7,483	26,369	15,409
		県支出金	千円 2,764	2,915			
		地方債	千円 10,500				
		その他	千円		8,007	29,735	16,926
		一般財源	千円 5,633			93	
		事業費計(A)	千円 20,997		18,405	56,197	32,335
		人件費	正規職員従事人数	人 3	4	4	
		延べ業務時間	時間 850	1,100	1,147		
		人件費計(B)	千円 3,682	4,664	4,827		
	トータルコスト(A)+(B)	千円 24,679		23,069	61,024		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどうか変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
新学習指導要領をはじめ教育改革の流れや社会情勢の変化のなかで、探究的な学び(PBL型授業)が重要とされる。また、学校を核とした地域づくりへの観点で特に高校に期待される役割が大きくなっている。	高校担当のCNに関して、他地域にみられる常駐型ではない仕組みへの転換を図り、雲南ならではの探究学習に特化した役割・配置とすることで、教職員の主体性を損なわず、かつ持続可能な推進体制が構築できつつある。	地域:中学生や高校生の積極的なチャレンジをさらに支援する体制構築に期待する声がある。 議会:認定NPOとの協働による先駆的な取組に対して評価する声がある。また、高校の教育課程(普通科やコース)をなどの在り方に踏み込んだ議論を早急にすべきとの声がある。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合 →	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 理由	雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムを核とした取り組みや議論の深まりに加え、中高連携をさらに進めることで成果の向上余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 理由	ヒト・モノ・コトをつなぎ、教育改革の流れを見据えた魅力ある教育環境創出をディレクションする人材の配置ができなくなることは、極めて大きな影響がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 理由	CN配置に類似する事務事業が他にはないため。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	CN配置に関しては委託料の大部分が人件費相当であり、成果指標の下方修正や仕様で定める業務の縮小を図らない限りは、削減余地は極めて少ない。 ※教育支援CNは、R2年度に定めた見直しの方向性について再検討中。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	受託先との協議も重ねながら現在の業務推進体制を構築してきたところであり、削減余地は極めて少ない。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由	市内すべての子どもたちの成長を支えるプログラム提供や伴走支援が中心の業務委託であり、公平・公正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果 A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 本事務事業で配置するCNを核に学校教育はもとより、スペシャルチャレンジ・ジュニア事業や中高生の！幸雲南塾などの社会教育の進化を通じて、多くの中高生に接続を図ることができた。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;"> 廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。 </p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
新学習指導要領をはじめ教育改革の流れを踏まえた教育環境の創出に向け着実に進化を続けている。教育魅力化CNは、コンソーシアムを核に学校・地域・保護者との信頼関係も深まっており、持続可能な推進体制の構築を見据えた取り組みに引き続き注力する。教育支援CNは、R2年度に定めた見直しの方向性(地域CNへの一元化)について、業務委託方式や教育委員会職員の校区担当制の検証も踏まえ、地域とともにある学校づくりの推進に向けた再検討を図る。																						